

# 会議録

- 1 開催した会議の名称 第2回佐賀県子ども施策推進協議会
- 2 開催日時 令和6年9月6日（金）13時30分～15時00分
- 3 開催場所 佐賀市青少年センター大会議室（佐賀バルーンミュージアム3階）  
（佐賀市松原2丁目2-27）
- 4 出席者 松山会長、春原副会長、森島委員、川原田委員、高尾委員、飯盛委員、  
山本委員、重松委員、橋口委員、谷口委員、西川委員、東島委員、  
渡辺委員、江里口委員、平尾委員、木村委員、久米委員、西村委員、  
庭木委員、石橋委員、小林委員  
事務局 県男女参画・子ども局 種村局長、宮原副局長  
県子ども未来課 千綿課長、松本副課長、牛島副課長、権藤係長、  
亀崎係長、濱崎係長、山下主任主査  
県子ども家庭課 末次課長、中元副課長、山口副課長、諸江副課長、  
橋本係長  
県男女参画・女性の活躍推進課 横田課長  
県障害福祉課 平野副課長  
県学校教育課生徒支援室 山崎指導主幹

## 5 議題

「子ども施策実行計画」に関する意見交換

## 6 会議概要

- (1) 開会
- (2) 挨拶（種村局長）
- (3) 「佐賀県子ども施策実行計画の概要」について  
＜資料3により事務局から説明＞
- (4) 意見交換
- (5) 閉会

### ○意見交換

＜資料3による事務局からの説明を受けて、出席した全委員からの発言＞

◎「子どもたちへの食育の推進」について。

貧困やひとり親の問題と食べることは密接に関わっている。また、こどもの食べ方に不安を感じる保護者が増えている。こどもが自分で選び食べていける大人になった時に、こども時代の食事がすごく大事なことだと思う。

◎「障害児や困難な状況にあるこども・若者、その家族への支援」について。  
外国籍のお子さんが非常に増えており、保護者さんにどういうふうに寄り添っていくかは直近の課題。「幼児期の教育・保育の一体的提供」について。文部科学省が進めている「架け橋プログラム」の進め方が市町で結構温度差があるので、県全体として進めばいいと思う。

◎保育現場の人材不足について。私立幼稚園・私立保育園・認定こども園の中でもすぐ対応できるような公的な人材バンクの設立とかができないかと考えている。

◎男性が家事や育児にしっかり参加して、結果的にそれがこどもに対してプラスになるように働きかけることができればいいなと思っている。

◎こども施策に関する方針について。「こども時代は未来への滑走路」という表現だとより遠くに高く早く進む飛行機を飛ばすこどもになりなさいと言われている気がする。滑走路は舗装された塵一つないまっすぐな道。また「滑走路を作るのは私たち大人の役目」とあるが、こどもは産まれながらに自分の未来を切り開く力を持っており、それを邪魔しないのが大人の役目。

◎こども施策に関する方針について。将来働く、家族になる、親になることを決められているところに息苦しさを感じる。災害が多いことから、こどもの安全を守るために防災関係、災害時緊急時の対応が必要。また、それを網羅したこどもの権利条例を佐賀県で作っていただきたい。

◎特別養子縁組制度で養子となったこどもについて。学校で他のこども達のいじめにあうなどの問題が起きている。学校への里親制度の説明や啓発を含めて、里親制度のことを早いうちにこどもたちに伝えることができないか。家族は血のつながりだけではなく、いろんな形があるということをこどもたちに早いうちに知ってほしい。地域の中で身近なところで相談できる場所が必要。

◎「児童虐待防止対策の充実」について。具体的にどんなことをするのか。虐待と認めていない保護者にはどう対応するのか。研修だけでなく地域で虐待防止をしていただきたい。横のつながりを必ず取ってほしい。親となる前に親になる研修を受けなければならないとなればいい。

◎今若いお母さんがすごく増えている。離婚問題、ヤングケアラーも増えている。地域の方たちに協力をいただき、見守っていただきたい。周りの人がもっと目を光らせて見てもらえるといろんな問題が少しは解けるのではないかと思う。

◎「妊娠・出産・育児に不安を抱える妊産婦」への取組としての家庭訪問をしている。訪問すると、第一声「出産して初めて大人とお喋りしています」と言われる。出産すると夫もこどものほうに向いていて私のことを気遣ってくれないと話がある。ボランティアといっても大事なことではないかと思っている。

◎「自らが選んだ将来のライフプランを叶える環境づくり」について。自分のライフプランをしっかり見据えて今をどう生きるかというのを選択できることは大切。体系化したプレコンセプションケア、性教育を受けられる機会を平等に与えていただきたい。また、日本は高校生で妊娠すると学校をやめないといけないが、子どもを産んだからといって学校を諦めるのではなく、子を産みたいという気持ちを引き出すように学校が支援する考え方の転換も必要と思う。

◎私たち労働組合の団体と経営者協会とで、子育て支援のアンケートを実施予定。「子ども・若者、子育て世帯への支援」、「地域における子育て支援の充実」、「ひとり親家庭の自立支援」「若い世代が描くライフプラン」というところでは、高校を卒業したばかりの組合員もいるので、幅広くいろんな世代のアンケートが可能。これからいろんな組合員の悩み事を聞きながら、どういった支援ができるのか考えていきたい。

◎「出会い・結婚応援」について。出会いサポートセンターでも、結婚はしてみたいが家庭を持つことに不安があるなどいろんなご相談を受ける。若い男女が早い段階で正しい知識を得て日々の生活の健康に向き合うことはとても大切なこと。子どもたちに妊娠・出産についてわかりやすく伝えていただく取組として、京都の中学校では、企業も入ってかなり踏み込んだ性教育などをされているようだ。佐賀県もぜひ取り組んでいただきたいと思う。

◎労働条件の改善についての国の支援策として、生産性の向上の関係や設備投資、年次有給休暇、賃金の引き上げ、あるいは正社員への転換に取り組む事業主に対する助成金がある。子ども家庭庁ができ、支援策についてかなりの予算がついた。2024年に新設された労働関係の助成金については、仕事と育児の両立の関係、育休代替職員に関すること、柔軟な働き方を選択するものなどについては、かなり手厚くなっている。

◎「放課後児童クラブ」「障害児施策の充実」について。放課後児童クラブは子どもの数は減っているが、待機児童が増えている。特別支援教室が増えたので空き教室が無い。一方で「放課後デイサービス」がどんどん増えてきている中、マンパワーや専門的な職

員が少ないという課題がある。こども施策の考え方について、我々はどんなこどもを育てたいのか。子どもたちはデジタル世代の人間だが、人間的なものは「高い志と佐賀への誇り」などアナログなこどもに育ってほしい。

◎逆境やストレスに直面した時に他者をうまく頼っていくことが重要。そういった力もこどもの頃から育まないと、親になった時に孤立した子育てをしてしまう。全国の不登校児童生徒の中で実際に支援を受けている人の割合が佐賀県は圧倒的に全国的にも高い。また佐賀で支援を受けて自立した子は佐賀県内で就職している割合が圧倒的に高い。佐賀県の発展のためにも当事者を支えていくというメッセージを強く打ち出すことが必要。支援は、必要などころにプッシュ型で届けていくことが大事。そのために手続きをできるだけDXを使って簡素化し、佐賀では1回の利用申込書で各機関の支援を受けられ、17事業がフリーパスで受けられる佐賀一括導入方式で対応。その他、人材不足については、施策を超えて共有人材を作っていくことも手段としては考えられる。

◎こども施策に関する方針について。現行の学習指導要領が Society5.0 の世代になっていく中で、予測不能な、とか、予測困難な時代を子どもたちは生きて行く。「滑走路」は既定路線のような印象を受ける。虐待も貧困もヤングケアラーも発達障害も食育もインターネットの課題もこどもの人権も、届いてほしい方になかなか届かないことに学校教育としては非常にジレンマを感じている。絵に描いた餅で終わらせないためにも届ける工夫がいるのではないかな。

◎ヤングケアラー、こどもの貧困などの問題について、各市町実態調査の把握ができているのか。私たちも民生委員の活動の中で、児童委員の活動もするが、その辺の情報は市からも特に障害やこどもの貧困関係も情報提供がないのでこどもに目を向けた活動ができていない。市町にはアンケート調査をやっていただき、実態の把握をしてほしい。

◎こどもがまんなかで、親御さんたちがその外側 その周りに支える皆さんがいて、そこまではこどもを向いていると思うが、その先があまりこどもを向いていない。その方々佐賀県の想いが伝わるようにしないといけない。志を持ったこどもが育ち、困ったら支えてあげて、大きくなって自分のプランを実現し、それがまた自分たちのこどもに帰ってきて循環していく。こどものためだけでなく、いろんな人のためになっていくということが腑に落ちないといけない。具体的な計画については、それぞれの立場で課題があると思うが、どこを重視したら効果があるかなど、重点を考えていかないと大変ではないかな。

○事務局からの連絡事項伝達後、閉会